



2010.11.発行 vol.73

スーパーの店頭で菊の花の袋詰めを見つけて、そういう季節が巡ってきたかと思いましたら、その横には紅葉した柿の葉が数枚パックになって並んでいました。場所によっては柿の葉も手に入らないのか、あるいは無農薬の柿の葉なのか??とあれこれ思い巡らしましたが、買う予定もないので、店員さんに尋ねるのは差し控えました。

かつて保育園で働いていたときに、初夏は柿のちいさな実を楊枝をさして人形の頭に見立てて、千代紙で服を作って部屋に飾っておくと、ママたちが「かわいい」と喜んでくれました。子どもたちはヘタをすると試食しそうなので見るだけ…。



秋には色づいた柿の葉が一枚、一枚と落ちてくるのですが、葉の厚みと色のつき方がそれはみごとな芸術品。それを壁に数枚飾るだけでも「秋を感じますネエ」なんて言われたり。でも、このみごとな葉を顔と着物に見立てて人形（ひとがた）を作り、素朴な目鼻もない人形にお喋りをさせると、2～3歳の子どもたちでも大喜び。「わたしのも作って」になり、大忙しになって全員の分を作ってやりますと、その人形に話しかけたり、互いに挨拶し合ったり、まるでひとつずつ個性があるみたいに。子どもってすごいなーと思います。さて、あれから数年。今の保育園の子たちは、ただの柿の葉っぱを人形に見立ててくれるのでしょうか。

小平はよーく見渡せば、大きな樹木もあり畑もあり、季節が感じられますが、子ども家庭支援センターは開設当初と違い、自然に触れようなどの体験は相談業務に追われて手が回らなくなりました。そのスタッフの中でも、直接親子さんと関わりを持つ機会の少なくなった私は、親子さんとの共感場面もさらに少なくなり、ちょっと寂しいかなと思ってしまうこともあります。でも嘆いては何も始まらない。元気村の庭にもドングリあり、水引草あり、秋の気配はやってきていますよーと、窓口でインフォメーション!!

時々お会いしていたお母さんと女の子、ちょっとした機会（チャンス）でお話ができました。女の子は目をまんまるにして大人二人の会話を聞いているようでした。なんとすぐ近所ということも分かって「うわー、大きくなるの見られる」と、ますます仲良しになりたいなと思っている秋の収穫です。お母さんも話してみると気さくな方で、お子さんのことを話題にしてもらって「ありがとうございます」なんて言ってくれました。もしかしたら…?! 秋を探しに行けるお仲間になれるかしら…と考えては欲張り過ぎでしょうか。



両方 仁子

